

【統計改革推進会議最終取りまとめ(平成29年5月)(抄)】

2 GDP統計を軸にした経済統計の改善

(1) GDP統計の体系的整備の全体像

基準年推計の改善に当たっては、GDP統計の基盤となる産業連関表の供給・使用表(SUT)体系への移行が重要である。

SUTという統一的な体系の下で、経済センサスから投入調査に渡る基礎統計の拡充・改善等を図り、これまでの従来型の産業連関表経由の間接的な推計ではなく直接的にGDP推計を推計することにより、精度向上が実現される。

(3) 生産面を中心に見直したGDP統計への整備

② SUT体系に移行するための基盤整備

・総務省は、来年度までに、サービス分野について用途の類似性による基準を指向した生産物分類を整備する。

・2020年を対象年次とする調査において、総務省及び経済産業省は、副業の生産構造を正確に把握するよう経済センサスの改善を図るとともに、投入調査実施府省は、財・サービスの生産における投入構造をより正確に把握するような標本設計を行うなど投入調査の改善を図る。

・2025年度に予定される国民経済計算(SNA)の基準改定で、副業の生産構造や投入構造の把握改善による年次SUTの刷新に取り組む。

4 報告者負担の軽減と統計業務・統計行政体制の見直し・業務効率化、基盤強化

(1) 報告者負担の軽減

⑤ 報告者負担の軽減のための取組の継続

・調査事項の限定

(2) 統計業務の見直し・業務効率化及び各種統計の改善

① 効率化の徹底による統計に関する官民のコストの引下げ(抜粋)

・各方面のユーザーのニーズ(中長期的なニーズを含む。)を踏まえた必要不可欠なものへの調査事項の限定